

豊中市都市農業振興基本計画の進捗状況について

基本的方向			施策内容	チャレンジプロジェクト	令和元年度実績	令和7年11月現在	目標値(令和11年度)	取り組んだ内容	成 果	課 題	今後の方向性	備 考
1 【生産者が農業を継続される環境づくり】	1-1 営農継続に向けた支援と多様な担い手の確保	(1)農地保全に向けた農地所有者への情報提供	農地所有者の継承時(相続の発生)は、農地保全に大きな影響があります。農地所有者に対して、農地保全に向けた情報提供や相談事業を行います。	-	農地台帳登載者(全戸)	農地台帳登載者(全戸)	農地台帳等申告書調査時に文書を配布し啓発した。	生産緑地の情報提供ができた。	効率・効果的な周知。	【継続】農地保全に大きな影響がある継承時(相続の発生)に農地保全に向けた情報提供や相談事業を行う。		
		(2)農地利用の最適化推進	農地貸借に関する情報を一元化し、就農等耕作希望者と農地所有者とのマッチングを行うことで農地利用の最適化を進めます。	チャレンジ①	0件	11件	10件	新規就農希望者と農地貸借のマッチングを行った。	農地の維持と新規就農者の支援ができた。	制度の周知と情報の一元化。	【継続】新規就農希望者や意欲的な農業者に対し、農地のマッチングを推進し、生産性向上を支援する。	案件2で詳細説明
		(3)栽培技術の向上、環境負荷低減に向けた栽培等の取組支援	農業振興の一環として、農業経営に必要な技術と知識の習得に資するため、農業先進地技術交換会への農業者の参加を支援します。環境負荷低減に向けた栽培等の取組を支援します。	-	コロナのため中止	1回/年	1回/年	農業経営者協議会研究部会における先進地の視察研修を行った。	農業栽培技術向上につながった。	新規研修参加者の獲得と習得技術の実践化。	【継続】農業振興の一環として、農業経営に必要な技術と知識の習得に資するため、農業先進地技術交換会への農業者の参加を支援する。	
	1-2 豊中農業の強みを生かした	(4)週末農業・農業ボランティアなど、農地所有者以外による農地の保全・活用	農業体験の利用者などから週末農業や農業ボランティアへの希望を募り、農業者支援や農地の保全につなげます。	チャレンジ① チャレンジ②	-	0人	10人	・8月農地所有者に援農ボランティア制度があれば利用したいかをアンケート調査した。・11月コミュニティ農園参加者に、援農ボランティアに参加したいと思うかアンケート調査した。	・援農ボランティアを利用したいという意向を持つ農家が一定数いることがわかった。・援農ボランティアに参加してもよいという意向を持つ人が一定数いることがわかった。	援農ボランティアに参加するための仕組みづくり	【継続】多様な担い手から援農ボランティアへの参画を促すとともに、受け入れ側の農家の意見も聞き、援農ボランティアの仕組みをつくり、農地の保全・活用を推進する。	案件2で詳細説明
		(1)市内事業者による豊中市産農産物の利活用	農業者と市内の食品製造業や飲食店等事業者とのマッチングを行い、豊中市産農産物の販路を拡大します。	チャレンジ②	-	3事業者	8事業者	学校給食のコロッケを加工する事業者と、市内農家のマッチングを行った。	豊中市産のたまねぎとじゃがいもを提供してもらい、市内農産物の利活用ができた。	持続可能な農産物を提供する側と希望する側のマッチング。	【拡充】市内の食品製造業や飲食店等からニーズがある豊中市産農産物について、農業者とも提供可能な品目を話し合い、持続可能なマッチングを行い、豊中市産農産物の利活用につなげる。	

基本的方向		施策内容	チャレンジプロジェクト	令和元年度実績	令和7年11月現在	目標値(令和11年度)	取り組んだ内容	成 果	課 題	今後の方向性	備 考	
農業経営の安定	(2)農業経営者協議会との連携の推進	農業経営者協議会及び農業協同組合等との連携・協働の強化により、地産地消の推進、都市農業の啓発、緑地空間としての農地の活用等を図ります。	-	5回/年	5回/年	5回/年	・農業経営者協議会を開催し、ふれあい緑地フェスティバル等各種イベントにおける農産物提供や、学校給食食材の提供を行った。 ・コミュニティ農園の運営協議会の会員として、事業に参画した。 ・令和7年7月部会を廢止し、農業経営者	・市内農産物生産者との連携により、地産地消の推進、都市農業啓発、緑地空間の活用が図れた。 ・農業者と市民、市民活動団体等横断的に農地の活用や農地保全に向けて取組むことができた。	新規生産者の参入及び新たな取組み。	【継続】農業経営者協議会及び農業協同組合等との連携・協働の強化により、地産地消の推進、都市農業の啓発、緑地空間としての農地の活用等を図る。		
1 【生産者が農業を続けられる環境づくり】	1-2 豊中農業の強みを生かした農業経営の安定	(3)農業施設等の導入支援	高齢化や酷暑下での農作業に効果的、効率的な農業器具等の導入を支援し、生産性の向上、農業経営の安定化等を図ります。	-	1件/年	3件/年	6件/年	上限1万円として農作業環境改善のための資材購入、上限10万円として農機具の購入助成をおこなった。	従来の大規模な設備投資だけではなく、作業環境の改善に必要な小規模な資材等についても補助対象に加えることでより多くの市内農家の経営の改善を図ることができた。	農業者へのさらなる制度の周知が必要。	【継続】高機能作業着等の購入により農作業環境の改善を図るとともに、園芸施設の設置や機材購入など、効果的、効率的な農業施設等の導入を促し、生産性の向上、農業経営の安定化等を図る。	案件2で詳細説明
		(4)農業共済の加入支援	農業者が不慮の事故によって受ける損失を補てんし、農業経営の安定化を図るため、大阪府農業共済組合への加入を促します。		水田台帳登載者(全戸)	水田台帳登載者(全戸)	水田台帳登載者(全戸)	當農計画書を當農者へ送付する際に農業共済への加入促進をおこなった。	當農計画書の送付時に農業共済のチラシを全戸に同封したことにより一定の加入効果があった。	共済事業のメリットを広く周知する必要がある。	【継続】農業者が不慮の事故によって受ける損失を補てんし、農業経営の安定化を図るため、農業共済への加入を促す。	
		(5)転作作物に対する支援	地域振興作物等を生産販売した農家を支援します。		配布農家戸数(0戸)	配布農家戸数(23戸R6)	-	農業経営者協議会研究部会においてケヤキ茄子の苗を配布、生産奨励を行った。	農業祭や朝市において出品し、市民に購入する機会をつくった。	市内全域へ普及しておらず、地域振興作物までには至っていない。	【継続】地域振興作物等を生産販売した農家を支援する。	
2 【多面的な機能を発揮した、農地の積極的な保全・	2-1 多面的機能を発揮した取組の推進	(1)社会福祉施設・市民団体等における農作業プログラムの推進	社会福祉事業者や市民団体等が行う農作業プログラムを取り入れた活動について農業者等と連携しながら支援を行います。	-	3施設	-	都市農地の貸借の円滑化に関する法律に基づき、社会福祉施設等が農家と使用貸借契約を締結し、施設利用者の農作業活動プログラムが実現した。	介護予防や心身の健康に寄与するとともに農地の維持継続ができた。	利用希望者と農地の提供者とのマッチング。	【継続】社会福祉施設等でニーズが高い農作業において、農業者とも連携して、マッチングをすすめていく。		
		(2)農地の有効活用・景観形成及び市民が自然とふれあう機会等の多面的機能の維持・向上	花畠を開放した農地所有者に対し助成金を交付するなど、市民が自然とふれあう機会の創出に努めます。		53カ所	26カ所	-	レンゲ畑の開放を行う農家へ交付金を交付することにより、農地の有効活用を図りながら市民に花とふれあう場を提供した。	農家の経営安定に資するとともに、市民福祉の増進と都市景観に寄与した。	新規農業者の参入及び多様な場所での実施。レンゲ以外の検討。	【継続】レンゲ畑を開放した農地所有者に対し助成金を交付するなど、市民が自然とふれあう機会の創出に努める。	

基本的方向			施策内容	チャレンジプロジェクト	令和元年度実績	令和7年11月現在	目標値(令和11年度)	取り組んだ内容	成 果	課 題	今後の方向性	備 考
活用】		(3)災害時の防災機能の向上	災害発生時に生活用水の確保や資材置き場として活用できる「防災協力農地」の周知に努めます。		—	—	4箇所	11月市内農地所有者300名に、防災協力農地登録制度についての周知と登録希望者の意向調査を行った。	意向調査の結果を集計中。 要綱の整備。協力農家の発掘。	【継続】災害発生時に、市民が緊急的に避難する空間、また、被災後の復旧用資材置き場として活用できる「防災協力農地制度」の協力農家の発掘に努めるとともに、地域住民へのPRもすすめる。	案件2で詳細説明	
2 【多面的な機能を発揮した、農地の積極的な保全・活用】	2-2 生産緑地の積極的な保全・活用	(1)農地パトロール事業による農地保全の推進	営農されるべき農地において、保全管理がされていないと思われる農地について、管理状況の確認と適正な管理指導など、農地保全を推進します。	チャレンジ①	—	全農地	全農地	全農地	農地パトロールを農業委員、農業委員会事務局職員で6月中旬から7月中旬にかけて市内全農地実施したことで遊休農地0を維持できた。	不耕作地の農地所有者に指導をおこなうことで遊休農地0につながった。 効率的なパトロールの実施。	【継続】営農されるべき農地において保全管理されていないと思われる農地について、管理状況の確認と適正な管理指導など農地保全を推進する。	
		(2)生産緑地・特定生産緑地の制度周知と指定	農地所有者へ生産緑地制度や特定生産緑地制度の周知を図るとともに適切に指定を行います。		農地台帳登載者(全戸)	農地台帳登載者(全戸)	農地台帳登載者(全戸)	農地台帳等申告書調査時に文書を配布し啓発した。	生産緑地の情報提供ができた。	効率・効果的な周知。	【継続】生産緑地の面積要件引下げについて、農地所有者等への制度の周知を図る。	
		(3)都市農地の貸借円滑化	生産緑地の貸借について「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」を踏まえ、耕作希望者と農地所有者のマッチングを図ります。		—	11	10	耕作希望者と農地貸借のマッチングを行った。	農地の維持と耕作希望者の支援ができた。	制度の周知と情報の一元化。	【継続】2018年に制定された「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」を踏まえ、意欲ある農業者や事業者等と農地所有者のマッチングを図る。	案件2で詳細説明
3 【豊中の	3-1	(1)豊中農業・農地に関する市民への啓発	豊中農業・農地の大切さや多様な機能について、より多くの市民に理解してもらえるよう、さまざまな場面において啓発に取り組みます。		定期朝市等複数回	定期朝市等複数回	—	HPやSNS等の広報媒体やイベントを通じ啓発をおこなうとともに、地産地消の販売機会を通じても啓発活動をおこなった。	豊中農業、農地に関する市民への啓発が図れた。	ICT等新たな情報発信ツールの活用。	【継続】豊中農業・農地の大切さや多様な機能について、より多くの市民に理解してもらえるようさまざまな場面において啓発に取り組む。	

基本的方向		施策内容	チャレンジプロジェクト	令和元年度実績	令和7年11月現在	目標値(令和11年度)	取り組んだ内容	成 果	課 題	今後の方向性	備 考	
「農や食」を通じた、市民の豊かな暮らしの実現	市民に対する豊中農業への一層の理解(認知)	(2)豊中市産農産物の購入機会の拡大	定期開催の直売や朝市の継続・発展に加え、市民団体や事業者と連携のもと、既存の施設等を活用し、定期・随時を問わず、市民が市産農産物を購入できる機会のいっそうの拡大に努めます。	6	9	—	定期開催の直売や朝市に加え、市庁舎地下のスペースを活用して即売会を行い、市民に市産農産物を購入する機会をつくった。社会福祉施設等と連携して出荷、販売の補助を行い、出荷困難な農家への出荷を促した。	市産農産物について、既存施設やサービスと連携し販売機会の拡大になった。出荷農家の拡大につながった。	自家栽培農家が多い状況であり、販売へのハードルとして、出荷手間が考えられる。出荷しやすい環境づくりが必要。	【継続】定期開催の直売や朝市の継続・発展に加え、市民団体や事業者との連携のもと既存の施設等を活用し定期・随時を問わず市民が市産農産物を購入できる機会のいっそうの拡大に努める。		
3 【豊中の「農や食」を通じた、市民の豊かな暮らしの実現】	3-1 市民に対する豊中農業への一層の理解(認知)	(3)学校給食での豊中市産農産物の利用促進	学校給食での豊中市産農産物の利用促進に向けて、実施計画の作成、関係者による検討会議の開催などを継続していきます。	—	22	18	—	農業経営者協議会研究部会やJAと連携し、市内農家から玉ねぎを購入し地元食材を使った給食を児童に提供した。	学校給食で活用されることで市産農産物が導入され、食育にも寄与した。	安定した数量の確保と多種多様な連携が必要である。	【継続】学校給食での豊中市産農産物の利用促進に向けて、実施計画の作成、関係者による検討会議の開催などを継続していく。	
		(4)新鮮で安全な農産物の提供と地産地消の推進	農業者及び農業者団体が学校給食等への地場産農産物の出荷及び市民に対する地場農産物の直売を行った場合、また、市民団体や事業者等による地産地消事業などにおいて、その費用の一部を補助します。		24	56(R6)	—	新鮮で安全な食の実現と地産地消を推進することを目的に補助金を交付した。	市内の農業者及び農業者団体の学校給食等への地場農産物の出荷及び市民に対する地場農産物の直売の支援になった。	出荷しやすい環境づくりと新規参入の獲得。	【継続】農業者及び農業者団体が学校給食等への地場産農産物の出荷及び市民に対する地場農産物の直売を行った場合、また、市民団体や事業者等による地産地消事業において、その費用の一部を補助する。	
		(5)農業祭の開催	市民と農業者との交流の場として、市民の農業に対する理解と認識を深めるとともに、地産地消を広くPRします。		4,500人	3,401人(R6)	—	11月 市民と農業者との交流の場とし、地産地消のPRを目的に開催した。	市民の理解と認識を深め、当市農業振興をより深められた。	新規農業者の参加や確保。	【継続】市民と農業者との交流の場として、市民の農業に対する理解と認識を深めるとともに地産地消を広くPRする。	
	(6)とよっぴー(堆肥)・大阪エコ農産物を活用した取組の推進	イベント等の機会を活用し、とよっぴー(給食の調理くずや食べ残し、街路樹の剪定枝を混合し発酵・熟成させた堆肥)や大阪エコ農産物の周知・普及を図り、豊中農業の理解醸成に取り組みます。	定例及び複数回	定例及び複数回	定例及び複数回	定期販売会やイベントを通して市民への普及促進が図られた。	堆肥を農業者に配布し、活用するとともに「緑と食品のリサイクルプラザ」や多様なイベントでの販売を通して理解醸成に努めるとともに豊中農業の理解促進を図った。	定例販売会やイベントを通して市民への普及促進が図られた。	様々な機会を通じた普及促進。	【継続】給食の調理くずや食べ残し、街路樹の剪定枝を混合し発酵・熟成させたとよっぴー(堆肥)の農業者への普及をはじめ、とよっぴーをとおして市民への豊中農業の理解醸成に向けて取り組む。		

基本的方向			施策内容	チャレンジプロジェクト	令和元年度実績	令和7年11月現在	目標値(令和11年度)	取り組んだ内容	成 果	課 題	今後の方向性	備 考
3-2 地域コミュニティと連動した農地の活用	(1)市民農園の整備及び開設支援	農を楽しむ場を提供する市民農園について、オーナーが整備・運営しやすいよう一部助成や支援を行うとともに、利用者が利用しやすい環境づくりに努めます。	チャレンジ③	21	18	23	1区画約15m ² 、利用期間約2年間で、2ブロックに分け毎年交互に利用者を募集している。	市民の余暇を楽しむ場の提供をおこない、農の普及に寄与した。	市民農園が減少傾向にあることや新規農園を増やすこと。 利用ニーズへの対応。	【継続】市民の余暇を楽しむ場を提供する市民農園について、運営費の助成をはじめ、整備・運営がしやすいよう支援を行う。		
3 【豊中の「農や食」を通じた、市民の豊かな暮らしの実現】	3-2 地域コミュニティと連動した農地の活用	(2)市民団体等と連携したコミュニティ農園の創出	市民団体等と連携し、農作業を通じて地域交流や環境学習、食育等の学びの機会を提供し参加者のコミュニティ形成を行うコミュニティ農園を創出します。	チャレンジ④	0	1	3	4月 服部緑地コミュニティ農園運営協議会を発足(市民活動団体、市農業者団体、市等で構成)し、服部緑地公園内の圃場にコミュニティ農園を開園した。	市民に農のある暮らしを体験してもらうことができ、農業の理解の促進とともに健康増進や食育にも寄与した。	今後、農園参加者をいかに援農ボランティアや新規就農者につなげていくか。	【継続】 コミュニティ農園を継続し、参加者と農業者の交流の機会を創出し、今後の新たな担い手の創出等、次の展開につながるよう努める。	案件2で詳細説明
		(3)田植え・稻刈り、さつまいも栽培等の農業体験の推進	農業者による市民を対象とした田植え・稻刈り、さつまいも等の栽培体験を支援し、豊中農業の理解醸成に取り組みます。	チャレンジ⑤	0	1	3	市内農地で、豊島西小学校の児童を対象に、田植え体験学習を行った。協力助成金要綱を整備中。	学校における職に関する取組の推進。地域住民への農業への理解の醸成。	新規実施場所や実施者の確保。	【継続】農業者と連携し、市民を対象とした農業体験を企画・実施、農のある暮らしの普及促進を図る。	